

令和3年度（2021年度）

若手教員等のための ま・ナビ やつしろ ～学級経営のイロハ～



八代で育ち
羽ばたく
若手教員等の
皆さんへ



八代管内学力充実推進会議

熊本県八代教育事務所・八代市教育委員会・氷川町（組合）教育委員会

はじめに

平成29年に告示された学習指導要領の前文に、学校教育に求められる役割が次のように示されています。

「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

若手教員等の皆さんは、まさにこの未来の創り手を育成する教師です。

本書は、この未来の創り手を育成する際の基盤となる「学級経営」について、八代で育つ若手教員等の皆さんを応援するために八代教育事務所、八代市教育委員会、及び氷川町（組合）教育委員会で作成したものです。

おもに「学習集団を育てるイロハ」、「生活集団を育てるイロハ」を中心に、学級経営の基礎・基本として27項目を示し、それぞれの項目ごとの要点を「ポイント」として3項目ずつ示しています。

本書を、皆さんの学級経営の道標として活用していただければ幸いです。

1 「学級」について

「学級」は、児童生徒にとって学校生活の基盤となるもので、いろいろな個性をもった児童生徒が集まった言わば「小さな社会」です。

学級には、「学習集団」としての側面と「生活集団」としての側面があります。どちらの集団も自然に育っていくものではなく、継続的・計画的に育てていくものです。また「学習集団」と「生活集団」は、それぞれが独立したものではなく相互に関わりがあり、どちらかの育成が前後するものでもありません。

学級を、児童生徒が互いに協力し合い、よりよい人間関係を主体的に形成していこうとする人間関係づくりが行われ、これを基盤とした豊かな集団生活が営まれる場に育てましょう。そして学級集団を、児童生徒が自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見つけようと努める集団に育てましょう。

2 「学級経営」について

「経営」とは、辞書によると「事業目的を達成するために、継続的・計画的に意思決定を行って実行に移し、事業を管理・遂行すること。また、そのための組織体。」とあります。

つまり「学級経営」とは、「学級を教育の目的を達成するために、継続的・計画的に組織し、運営すること」です。そして、学級経営の基盤となるものは、教員と児童生徒との信頼関係、児童生徒相互のよりよい人間関係を育むことです。

「小さな社会」である学級の中で将来の担い手が育つよう、若手教員等の皆さんの学級経営を八代教育事務所、八代市教育委員会、及び氷川町（組合）教育委員会が応援します。

「学級経営のイロハ」チェック表

学級経営の基礎・基本ができているか、チェックしましょう。

① 学級		チェック欄
イ	学級は、児童生徒の学校生活の基盤であることを意識して集団を育成している。	
ロ	学級集団を「学習集団」として、「生活集団」として並行して育てている。	
ハ	学級は、すべての児童生徒にとって落ち着ける場所であり、活躍できる場面がある。	
② 学級経営		チェック欄
イ	学級経営の目的に沿って、学習指導と生活指導を行っている。	
ロ	「生徒指導の3機能」を意識して生徒指導をしている。	
ハ	児童生徒との信頼関係を築いている。	

Ⅰ 学習集団を育てるイロハ

① 学習規律（授業前）		チェック欄
イ	教室移動を済ませ、授業の準備を先にさせている。	
ロ	チャイム着席（開始）、チャイム終了をしている。	
ハ	忘れ物ゼロの指導をしている。	
② 学習規律（授業中）		チェック欄
イ	あいさつを、笑顔でしっかりとしている。	
ロ	しっかり聴くことを意識付けしている。	
ハ	指名されたら返事をする、丁寧な言葉遣いをするよう指導している。	
③ 学習規律（授業後）		チェック欄
イ	使った用具等の片付けをきちんとさせている。	
ロ	トイレ等を済ませておくよう指導している。	
ハ	授業開始に遅れそうなどの連絡を確実にさせている。	
④ 姿勢		チェック欄
イ	机と体はこぶし一つ分空けさせている。	
ロ	足は床に付けさせている。	
ハ	背筋は伸ばさせている。	
⑤ ペア学習・グループ学習		チェック欄
イ	学習効果を高めるための指示を事前にしている。	
ロ	ペア学習を取り入れる意図を明確にしている。	
ハ	グループ学習を取り入れる意図を明確にしている。	
⑥ 机間指導		チェック欄
イ	学習状況を把握し、必要に応じて指導・支援をしている。	
ロ	児童生徒の考えを把握し、意図的指名に生かしている。	
ハ	個別指導中も学級全体の状況を把握している。	
⑦ 発問		チェック欄
イ	簡潔で分かりやすい言葉を使っている。	
ロ	多様な考えが出せる発問をしている。	
ハ	一人が答えて終わりではなく、その考えを広げる働きかけをしている。	
⑧ 指名		チェック欄
イ	自分の考え（疑問）をもてるように時間を確保している。	
ロ	発表は教師にではなく、クラス全体に伝える意識をもたせている。	
ハ	児童生徒同士の考えをつなぐ役割をしている。	
⑨ 板書		チェック欄
イ	授業の構想のために、板書計画を立てている。	
ロ	発表された意見だけでなく、価値あるつぶやきも板書している。	
ハ	児童生徒にとって見やすい板書をしている。	
⑩ ICTの使い方		チェック欄
イ	使用する目的・場面を明確に意識している。	
ロ	使い方を工夫している。	
ハ	活用の際の留意点を把握している。	
⑪ ノート指導		チェック欄
イ	教科ごとにノートの使い方を指導している。	
ロ	自分の考えを書く時間を確保している。	
ハ	ノートに書き写すことだけが目的にならないよう意識付けている。	

2 生活集団を育てるイロハ

① 児童生徒理解 チェック欄

イ	児童生徒を意図をもって観ている、話しかけている。	
ロ	児童生徒一人一人に寄り添っている。	
ハ	集団との関係を観ている。	

② 表情・声・話し方 チェック欄

イ	表情を豊かにしている。	
ロ	児童生徒が聞きやすい声のトーンや速さを意識して話している。	
ハ	正しい言葉遣いをしている。	

③ 聴き方 チェック欄

イ	最後までしっかり話を聴いている。	
ロ	「聴いているよ」のメッセージを伝えている。	
ハ	話の内容を理解するための問い返しをしている。	

④ 児童生徒への指示 チェック欄

イ	分かりやすい指示をしている。	
ロ	簡潔な指示をしている。	
ハ	必要以上に言い直しや繰り返しをしていない。	

⑤ 認め方・ほめ方 チェック欄

イ	基準を明確にしてほめたり、認めたりしている。	
ロ	事実を基に具体的にほめたり、認めたりしている。	
ハ	自己有用感や自己肯定感を育てる意図をもってしている。	

⑥ 叱り方 チェック欄

イ	指導を受け入れやすい環境を考えて指導している。	
ロ	人格の否定はせず、焦点を絞って指導している。	
ハ	児童生徒自身が行為を見つめることができるよう働きかけしている。	

⑦ 朝の会・帰りの会 チェック欄

イ	朝の会では、一日の見通しをもたせている。	
ロ	健康観察は、担任が顔を見ながら行っている。	
ハ	帰りの会では、一日の出来事でのよさや頑張っていた姿を共有している。	

⑧ 休み時間の指導 チェック欄

イ	授業中に発言が少ない児童生徒への言葉かけをしている。	
ロ	児童生徒同士の言動に耳を傾け、関係の把握をしている。	
ハ	みんなで活動する日を設けている。	

⑨ 給食指導 チェック欄

イ	給食を通して学ぶことを伝えている。	
ロ	時間内で食べ終わることができるように指導している。	
ハ	アレルギー対応食の把握をしている。	

⑩ 清掃指導 チェック欄

イ	掃除を通して学ぶことを伝えている。	
ロ	分担を適切に決めている。	
ハ	清掃活動の姿を評価し意欲付けをしている。	

3 教室環境のイロハ

① 教室の整理整頓（一日の始まり） チェック欄

イ	教室で登校を笑顔で迎えている	
ロ	持ち物の整理を指導している。	
ハ	机やいす等の点検をしている。	

② 教室の整理整頓（一日の終わり） チェック欄

イ	床に落ちているごみを拾うよう習慣付けている。	
ロ	机やいすはきちんと並べさせている。	
ハ	掲示物や掃除用具等の点検をしている。	

4 組織の一員としてのイロハ

① 教育目標と取組 チェック欄

イ	学級経営案で育てたい児童生徒像を明確にしている。	
ロ	カリキュラム・マネジメントで、目指す児童生徒を計画的に育成している。	
ハ	触れ合いや観察等を通して、児童生徒理解をしている。	

② 報告・連絡・相談 チェック欄

イ	学校(学年)チームを意識して、取組状況を共有している。	
ロ	保護者や地域の方との連携に際しては、情報を管理職や学年主任に報告している。	
ハ	悪い情報を速やかに管理職に報告している。	

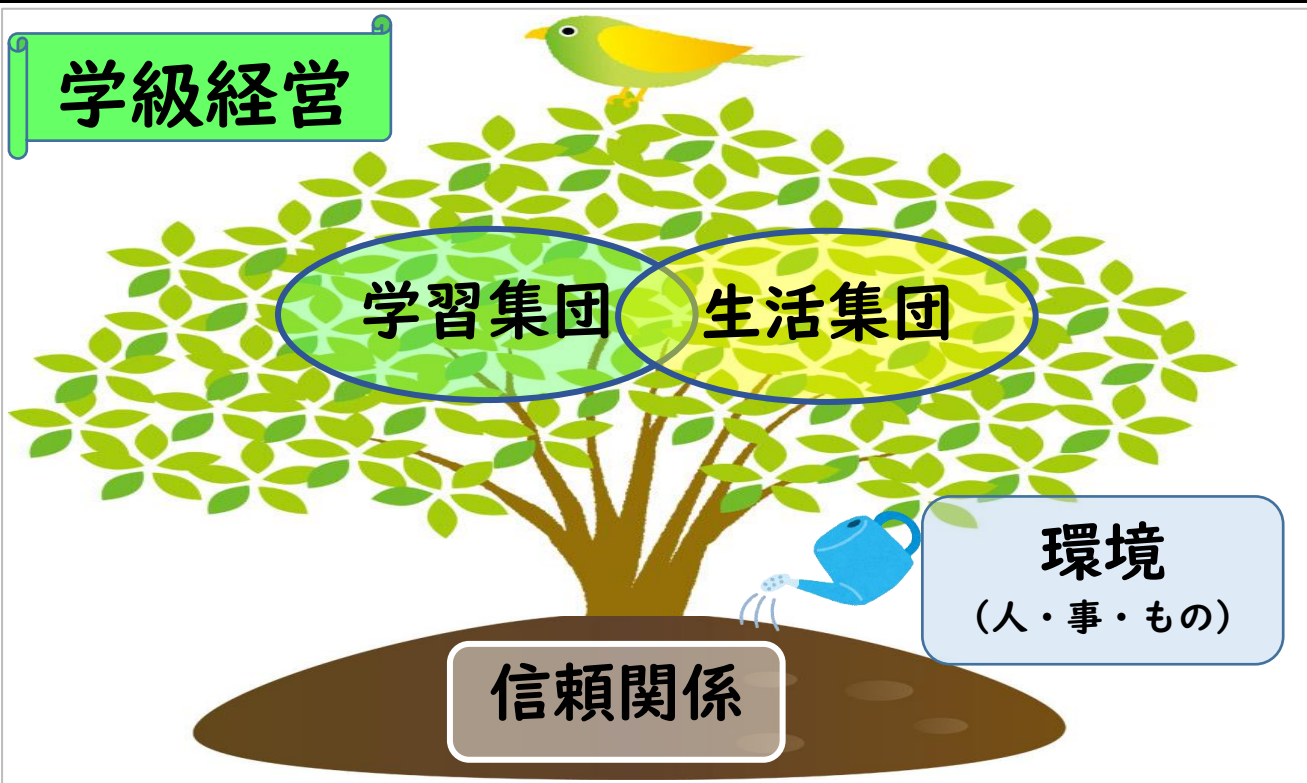
若手教員等のための「ま・ナビ やつしろ」 ～学級経営のいろは～

㊦ は、基礎・基本のポイントを表しています。

□ は、具体的事項を、※は、留意点を表しています。できている具体的事項は、□を赤で塗りましょう。

基礎・基本	イ	ロ	ハ
① 学級	㊦ 児童生徒の学校生活の基盤 - 学級は、いろいろな個性をもった児童生徒が集まった「小さな社会」です。 - 児童生徒が、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見つけようと努める集団、互いに協力し合い、よりよい人間関係を主体的に形成していこうとする人間関係づくりとこれを基盤とした豊かな集団生活が営まれる学級を育てましょう	㊦ 学級集団の二つの側面 - 学級集団には、「学習集団」としての側面と「生活集団」としての側面があります。 「学習集団」と「生活集団」の育成を独立したものとして捉えるのではなく、並行して育成するものであると捉えましょう。	㊦ 「居場所づくり」と「絆づくり」を 「居場所づくり」とは、教員が、学級をどの児童生徒にも落ち着ける場所にしていこうことです。 「絆づくり」とは、すべての児童生徒が、日々の授業や行事等において、活躍できる場面を実現することです。
② 学級経営	㊦ 学級経営とは - 学級を教育の目的に沿って効果的に組織し、運営すること。学習指導と生活指導を総合し、学級内の人間関係の発展を促すなどのほか、学級の物的環境を整備するなどの教育活動のこと。(出典:デジタル大辞泉) - 教員と児童生徒との信頼関係、児童生徒相互のよりよい人間関係を育むことが基盤です。	㊦ 生徒指導の3機能 「生徒指導」とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。 - 生徒指導の3機能とは次の三つです。 ① 児童生徒に自己存在感を与えること ② 共感的な人間関係を育成すること ③ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること	㊦ 児童生徒との信頼関係を - 学級経営の基盤を整えるための取組をしましょう。 □ 日ごろの人間的な触れ合い □ 児童生徒と共に歩む教員の姿勢 □ 授業等における児童生徒の充実感・達成感を生み出す指導 □ 児童生徒の特性や状況に応じた的確な指導 □ 不正や反社会的行動に対する毅然とした指導

学級経営



1 学習集団を育てるイロハ

基礎・基本	イ	ロ	ハ
① 学習規律 (授業前)	㊦教室移動を済ませ、授業の準備を □教室移動が必要な場合は、学習用具等を準備して先に移動させましょう。 ※必要に応じて、全員で並んで移動することも考えられます。	㊦チャイム着席を □チャイムが鳴った時には、着席しておくように意識させましょう。 □授業はチャイムで開始し、終了のチャイムで終わります。	㊦忘れ物ゼロを □学習活動に必要なものは、前日までに連絡し、児童生徒にはメモを取って、登校前に確認するよう習慣付けをしましょう。 □登下校の負担軽減から、持ち帰らせる物、教室に置いたままでよい物を区別させましょう。
② 学習規律 (授業中)	㊦あいさつは、笑顔でしっかり □授業のはじめ、終わりのあいさつは、すべての児童生徒が姿勢を整えていることを確認しましょう。 □児童生徒があいさつをしたことを見届けるために、教師は一呼吸遅れてあいさつしましょう。	㊦しっかり聴くことの意識付けを □話をする人に意識を向けて聴くようにさせましょう。 例) ・自分のしていることを止めて ・話している人を見て ・話している人に体を向けて	㊦返事と丁寧な言葉遣いを □指名や指示をされたら、「はい。」と返事をさせましょう。 □発言に際しては、丁寧な言葉を使い、語尾まではっきり言うように指導しましょう。
③ 学習規律 (授業後)	㊦使った用具等の片付けを □授業で使用した学習用具は、決まった場所に片付けさせましょう。 □いすは机にきちんと入れ、机上を整理し、机周りに落ちているごみなどがあれば、捨てるように指示しましょう。	㊦トイレ等を済ませておくよう指導を □次の学習活動等に備えて、済ませておくように伝えましょう。 ※授業中は、学習活動以外では離席しないことを児童生徒と共通理解しておきましょう。	㊦授業開始に遅れそうなどきの連絡を □保健室を利用するなど、授業開始に遅れそうなどきは、直接先生に伝えるか、友達に伝言を頼むようにさせましょう。
④ 姿勢	㊦グー(机と体の間はこぶし一つ分) □机とお腹、背中と背もたれの間を、握りこぶし一つ分開けさせましょう。	㊦ペタ(足は床に付ける) □両足を肩幅くらいに開き、両足の裏を床に付けさせましょう。	㊦ピン(背筋を伸ばす) □背中と腰を伸ばし、体が曲がらないようにさせましょう。 □姿勢が崩れてきたときに確認できるように、絵カード等を準備しておくといでしょう。
⑤ ペア学習・グループ学習	㊦学習の効果を高めるための指示を事前に □何のために(目的)、何について(内容)、どのようにして(方法)を簡潔に伝えましょう。 □終わりの時間、早く終えた場合どうするかを伝えましょう。 □グループの人数は3人～4人にしましょう。	㊦ペア学習をさせる目的を明確に ・自分の意見に自信をもたせたい場合。 ・全員に意見を表現する場を設けたい場合。 ・教え合いをさせたい場合。 ・お互いに確認をさせたい場合。	㊦グループ学習をさせる目的を明確に ・多様な意見にふれさせたい場合。 ・多様な意見をまとめたい場合。 ・多様な意見を参考に、自分の意見を整理させたい場合。
⑥ 机間指導	㊦学習状況の把握を □児童生徒が指示したことを把握できているか、学習活動を進めることができているか把握しましょう。 □机間指導中、必要に応じて指導・支援をしましょう。 ※児童生徒に協働で課題解決させたい場合は、教え過ぎに気を付けましょう。 ※児童生徒が個別の指導・支援を求めている場合は控えましょう。	㊦児童生徒の考えを生かすために □学習課題等についての児童生徒の考えや疑問を把握し、全体の学びの場に取り上げましょう。 □学習が深まる(広まる)ように、取り上げる順番は意図的に決めましょう。 ※分かった児童生徒だけでなく、迷っていることや分からないことを取り上げることも、児童生徒相互の学び合いの場となる場合があります。	㊦学級全体への配慮を □個別指導をする場合でも、立ち位置や体の向きを工夫して、常に学級全体の状況を把握しましょう。 ※個別指導をしている間でも、課題が早く終わって退屈している児童生徒はいないか、課題が進まなくて困っている児童生徒はいないかなど、全体の状況を広く把握しましょう。

基礎・基本	イ	ロ	ハ
⑦ 発問	㊦簡潔で分かりやすい言葉を使って □児童生徒が何を考え、どう答えればよいのか分かりやすい発問をしましょう。 □簡潔にすることで、児童生徒が考える時間を確保しましょう。 □発問の難易度を考えて、誰でも答えられるような発問をしましょう。	㊦多様な考えが出せる発問を □一問一答にならないように(教師がもっている答えを当てるような状況にならないように)しましょう。 ※答えが一つしかない発問では、多面的・多角的に考えることができません。	㊦一人が答えて終わりではなく、その考えを広げる働きかけを □理解の早い児童生徒のペースで進めないようにしましょう。 □一人が答えて「同じです。」で終わらせず、どこが同じか表現させましょう。
⑧ 指名	㊦自分の考え(疑問)をもてるように □発問して、すぐに指名するのではなく、児童生徒が考える時間を十分確保しましょう。 □机間指導をして、児童生徒の考えを把握し、意図的指名に生かしましょう。 □「分からない」という声は、ほかの児童生徒が説明することなどにより、皆がよりよく理解を図る機会と捉えましょう。 ※一部の児童生徒だけの指名にならないようにしましょう。	㊦発表は教師にではなく、クラス全体に伝える意識を □教師と発表者の1対1のやりとりにならないようにしましょう。 □クラス全体に伝えるよう、体の向き、声の大きさや速さなどを意識させましょう。 □クラス全体に伝える意識を高めるために、教師は教室のどの位置に立つとよいか工夫しましょう。 例) ・児童生徒の対角線上に立つ。	㊦児童生徒同士の考えのつなぎ役に □友達の考えをどう思ったか(意見や疑問など)を確認しましょう。 例) ・Aさんは、〇〇という意見だけど、Bさんはどう思う？ ・Cさんは、Aさんとどんなところが「同じ」だと思ったの？
⑨ 板書	㊦板書計画を授業構想として □教科ごとに、「めあて」「課題(問題)」「児童生徒の考え」「まとめ」を書く位置を決めましょう。 □毎時間書く必要があること、例えば「めあて」などは、カードにしたり、記号化したりするとよいでしょう。	㊦発表された意見だけでなく価値あるつぶやきも板書して □児童生徒の思考の流れが見えるように書き留めましょう。 □めあてに関わるつぶやきも吹き出し等を使って書き留めましょう。	㊦児童生徒にとって見やすい板書を □黒板は溝を含めてきれいにしましょう。 □授業に関係のないものは、黒板に貼らないようにしましょう。 □チョークは主に白・黄を使用しましょう。赤や青などは児童や天候によって見づらい場合があります。
⑩ ICTの使い方	㊦使用する目的・場面を明確に 例) ・導入場面で、関心を高めたい。 ・問題提起の場面で、課題を明確に把握させたい。 ・展開の場面で、情報の収集や意見の交流、共有をさせたい。 ・まとめの場面で、分かりやすく説明したい。	㊦使い方の工夫を 例) ・注目させたい部分を拡大する。 ・考えさせたい部分を隠す。 ・児童生徒の発表に必要な画像等を映す。 ・個々の習熟度に応じた練習問題を選ばせる。	㊦活用の際の留意点の把握を □スクリーンが見えにくい位置の児童生徒からも見えるか確認しましょう。 □必要な時だけ、スクリーンに映したり、タブレットPCを開かせたりするようにしましょう。 □記録に残すもの(板書、ノート)とそうでないものを区別しましょう。
⑪ ノート指導	㊦必ず使い方の指導を □教科ごとの使い方について指導する時間を設定しましょう。 □書く時の約束事を守らせましょう。 例) ・めあては、赤線で囲む。 ・課題は、黒線で囲む。 ・線を引くときは定規を使う。	㊦自分の考えが分かるように □期日、めあて、課題(問題)、自分の考え、まとめ、振り返りなどが分かるように書かせましょう。 □めあてに関わる自分の考えは、必ずノートに残させましょう。	㊦ノートに書き写すことだけが目的にならないように意識化を □自分の考えを表現させたり、自分の言葉でまとめさせたりしましょう。 ※板書をきれいに書き写すことで、分かったつもりになる場合があります。

2 生活集団を育てるイロハ

基礎・基本	イ	ロ	ハ
① 児童生徒理解	☞意図をもって観る、話しかける □児童生徒一人一人の特徴や傾向の理解に努めましょう。 □漫然と観るのではなく、何を観るのか意識して観ましょう。(言動を観る、表情を観るなど) □児童生徒一人一人に意図的に声をかけるようにしましょう。興味・関心や悩み、交友関係などに気付くことがあります。	☞一人一人に寄り添う □児童生徒とよい関係を築きたいという気持ちを持ち、相手の立場になって考えながら共感的に理解に努めましょう。 □児童生徒の言動の意図や背景を理解しようと意識しましょう。 □うなずいたり、相槌を打ったりして児童生徒がリラックスできるようにしましょう。	☞集団との関係を観る ・集団には、個人の理解だけでは捉えきれない集団特有の特徴や問題があります。 □集団の構造や性格も意識して観るようにしましょう。 □集団の中での児童生徒の関係も意識して観るようにしましょう。
② 表情・声・話し方	☞表情を豊かに □笑顔が基本です。 □物事の善悪や教師の考え方を伝えるために、あえて怒った表情や悲しい表情で伝えることも大切です。	☞児童生徒が聞きやすい声のトーンや速さで □声の強弱や明暗を使い分けましょう。 □高い声で話し続けると、聴き手は疲れてしまいます。自分の声のトーンも意識しましょう。	☞正しい言葉遣いで □授業の中では、正しい日本語を使いましょう。俗語は使いません。 □児童生徒を「ちゃん」やニックネームで呼ばないようにしましょう。
③ 聴き方	☞最後までしっかり聴く □児童生徒の話を途中で切らずに、言いたいことは何かを考えながら聴きましょう。 □児童生徒がなぜそう発言しているのか、背景を考えながら聴きましょう。	☞「聴いているよ」のメッセージを □話している児童生徒を見て、笑顔で、うなずきながら聴きましょう。 □忙しくても、手を止めて話を聴きましょう。 □話していることに関心をもって聴きましょう。	☞分かるための問い返しを □聴いていて分からないことは、聴き直して確認するようにしましょう。 □表現が不十分で分かりにくい場合は、教師が内容を確認したり、周りの児童生徒に表現し直させたりしましょう。
④ 児童生徒への指示	☞分かりやすく □次のことを伝えましょう。 ・何をするのか ・どうやってするのか ・活動の時間 ・早く終わった場合 □分かりにくい点はないか質問に答えた後、活動に取りかからせましょう。	☞簡潔に □指示する事柄は整理して、少ない数にしましょう。 ※一度に多くの内容を指示すると理解が難しい場合があります。 □分かりにくい場合は、板書等で視覚的に伝えましょう。	☞必要以上に言い直しや繰り返しをしない □一度の指示で児童生徒が理解できるようにしましょう。 □指示の言い直しはしないようにしましょう。 □児童生徒の活動中は、黙って見守りましょう。
⑤ 認め方・ほめ方	☞ほめたり、認めたりする基準を明確に □他者との比較ではなく、「できるようになった」「上手にできた」など、児童生徒自身の成長をほめましょう。 □結果に関わらず努力していることをほめましょう。 □誰かのために行動したことをほめましょう。	☞事実を基に具体的にほめる、認める □どのようなことについてほめられたのか児童生徒が分かるようにしましょう。 例) 逆上がりが上手にできるようになったね。 □結果の良し悪しでなく、取り組んでいること自体を認めましょう。 例) 逆上がりの練習をがんばってるね。	☞自己有用感や自己肯定感を育てる意図をもって □「自己有用感」は、誰かに感謝されるなど第三者との関わりの中で育まれます。児童生徒が誰かの役に立てる場を設けましょう。 □「自己肯定感」は、自分には価値があるとか自分は愛されているという感覚です。できる、できないでなく、I(アイ)メッセージで伝えましょう。 例) Aさんが登校してくれたことが、私は(先生は)嬉しかったよ。

基礎・基本	イ	ロ	ハ
⑥ 叱り方	☞指導を受け入れやすい環境を □学級全体に関係のない個人的なことは、大勢の前で叱らないようにしましょう。 □児童生徒が落ち着いて聞ける場所で、教師も児童生徒も椅子に腰かけて話すなどの工夫をしましょう。 □行為には児童生徒なりの理由があるということを理解しましょう。	☞焦点を絞って指導を □児童生徒が、自分のどのような行為について指導されているのかが理解できるようにしましょう。 □過去の行為や他の類似した行為を持ち出すことはせず、当該の行為についてのみ指導しましょう。 □行為についての指導をするのであり、人格の否定は絶対しないようにしましょう。	☞児童生徒自身が行為を見つめる働きかけを □落ち着いたところで、自身の行為をどう考えているか話させましょう。 □どのようにしたらよかったか、これからどうするとよいかを考えさせましょう。
⑦ 朝の会・帰りの会	☞一日の見通しをもたせる □連絡事項や日課の変更、準備物など、一日の流れを簡潔に連絡しましょう。 □係や当番からの連絡も簡潔に伝えさせましょう。	☞健康観察は丁寧に □担任が一人一人の顔を見ながら行いましょう。 □気になる場合は、休み時間等を使って個別に声をかけて確かめましょう。	☞よさや頑張りの共有を例) ・一日の学校生活の中でよかったことの発表。 ・友達が頑張っていた姿の紹介。
⑧ 休み時間の指導	☞授業中に発言が少ない児童生徒への言葉かけを □ふだん積極的に発言しない児童生徒やおとなしい児童生徒などに、言葉かけをしましょう。 □児童生徒の興味がある話題を把握しましょう。	☞児童生徒同士の関係の把握を □児童生徒同士の言葉遣いや態度から気になる言動がないか把握しましょう。 □人を傷つける言動があった場合は、すぐ指導しましょう。 ※「叱り方」の項を参考に	☞みんなで活動する日の設定を □可能であればみんなで一緒に活動する機会を週1回設けましょう。 例) みんなで遊ぶ日を設ける。
⑨ 給食指導	☞給食を通して学ぶことを伝えましょう ・健康に気を付けた食事の摂り方。 ・衛生や安全への配慮の仕方。 ・勤労の気持ちと感謝の気持ち。 ・楽しく食事をする環境づくり。 ・時間を意識した行動。 例) 食事の時間を△分確保するために、準備の時間は▲分で終わらせる。	☞時間内で食べ終えるような指導を □平等な量で配膳することが基本です。しかし、体格や体調、体質によって食べられる量や食べられない物があることに配慮しましょう。 □必要に応じて、保護者や養護教諭との共通理解を図りましょう。	☞アレルギー対応食の把握を □アレルギー対応食の配膳については、大人がきちんと管理し、一般食の児童生徒とのやり取りはしないよう指導しましょう。
⑩ 清掃指導	☞掃除を通して学ぶことを伝えましょう ・みんなが使う場所、自分が使う場所の環境を整える公共心。 ・担当した場所をきちんと清掃する責任感。 ・他者と協力する心。	☞分担を適切に決める □担当者、清掃する場所、使用する用具を確認しましょう。 □用具の使い方等が分からない場合は、演示して理解を図りましょう。	☞適切な評価で意欲付けを □「Aさんのおかげで、きれいになった」など、頑張りを認めましょう。 □教師も児童生徒とともに清掃しましょう。授業時間等には気付かなかった児童生徒の姿に気付くことができます。

3 教室環境等のイロハ

基礎・基本	イ	ロ	ハ
① 教室の整理 整頓 (一日の始まり)	☞教室で児童生徒の登校を迎える □笑顔で、児童生徒を迎えましょう。 □登校してきた児童生徒の表情を観察し、気になる児童生徒には声をかけましょう。	☞持ち物の整理を □ランドセルやカバン等は個人の棚の中に整頓させましょう。 □持ち物の向きや置く位置を揃え、教室全体がすっきりした感じに整います。	☞机やいす等の点検を □人を中傷するような落書きがないか、机上や壁面、掲示物を確認しましょう。もし、発見した場合は、記録写真を撮り、管理職に報告するとともに速やかに消しましょう。
② 教室の整理 整頓 (一日の終わり)	☞床に落ちているごみを拾う □下校前に、床にごみが落ちていたら拾うように習慣付けましょう。	☞机いすはきちんと並べる □いすは机に入れ、縦横の列をきちんと整えさせましょう。	☞掲示物や掃除用具等の点検を □掲示物が外れかかっているか、雑巾が落ちていないか、歯磨き用具は整頓されているかなど点検しましょう。 □黒板の日付や日直当番を書き換えておくように指導しましょう。

4 組織の一員として

基礎・基本	イ	ロ	ハ
① 教育目標と 取組	☞学級経営案で育てたい児童生徒像を明確に ・学級の教育目標は、学校の教育目標と密接に結びついたものです。 □児童生徒の発達段階や実態を踏まえて、学級の教育目標を設定し、その達成に向け、どのように児童生徒を育成したいか具体的に構想しましょう。	☞カリキュラム・マネジメントで計画的に育成を ・学級という「場」で、1年間という限られた「時間」の中で、教育活動をとらえて目指す児童生徒を育成します。 □学級の教育目標達成に向けて、「人」「物」「事」「時間」を組織的、計画的に位置付けましょう。	☞確かな児童生徒理解を ・学級経営の基盤となるのが、確かな児童生徒理解です。 □学級には多様な児童生徒がいることを前提に、児童生徒との人間的な触れ合い、きめ細かい観察や面接、保護者との対話を深め、一人一人の児童生徒を客観的かつ総合的に理解しましょう。
② 報告・連絡・ 相談	☞取組状況の共有を □学級の教育活動は、学校教育目標の達成に向けた、取組の一部分を担っていると考えましょう。(チーム学校) □学級は、「担任のもの」ではありません。学年部及び管理職と取組を共通理解したり、進捗状況を共有したりしましょう。 □報告・連絡・相談の留意点は以下の3点です。 ①気になったことは、小さなことでも報告する。 ②メモに残す習慣を身に付ける。 ③日頃から謙虚な姿勢で助言を求める。	☞保護者や地域の方との連携に関わる情報の報告を □外部に発信する、外部の方と連携するなど外部と関わる活動・業務については、事前に管理職に連絡や相談をしましょう。 □苦情や相談等については、一人で抱え込まず、学年主任や管理職に報告しましょう。	☞悪い情報ほど速やかに報告を □悪い情報ほど、早期に対応することが求められます。最善の対応をするために、速やかに学年主任や管理職に報告しましょう。 ※誰にも相談せずに、行動することで、学校や学年としての対応にずれが生じ、かえって問題が大きくなる可能性があります。

【参考文献】

・「生徒指導提要」 文部科学省
 ・生徒指導リーフ「絆づくり」と「居場所づくり」 国立教育政策研究所
 ・「中学校の初任者教員 これだけは押さえよう 校長用指導マニュアル」 国立教育政策研究所
 ・「授業の基礎・基本」 福島県教育庁県南教育事務所
 ・「富山市教職員研修の手引き(道しるべ)」 富山市教育センター